

「ハンディキャップと共に」

私は、二歳の時に原因不明の感音性難聴という病になり、聴力をほぼ失いました。まだ幼い私はそのことを理解することができませんでした。

私が耳の異変を自覚したのは、小学校に入学してからのことです。周りの友達が言う蚊の音や授業で話している先生の声も私にはほとんど聞くことができませんでした。「えっ、何で聞こえないの。」何回聞かれても、私には答えることができず、ショックを受けることが多くなりました。時には自分の中の動揺を抑えることができなくなり、周りに当たり散らすこともありました。その後も症状が改善することはなく、学年が上がるにつれ、私はいじめの対象にされました。中学校に入学してから、私は人と話すことに対して恐怖を感じるようになっていました。相談室登校をしていました。

中学三年生の進路を決める時期になっても、投げやりな毎日を過ごしていたので、進学しようとは考えてはいませんでした。そんな時、中学校入学当初から私の話を親身になって聞いてくれた先生から手紙をいただきました。その手紙には「学

校と一言で言っても、今は様々な学校があるから前向きに考えて進んでほしい。」という私を励ます内容でした。その手紙を読んで高校に進学してちやんと卒業しようと思いました。そこで自宅からも近く、時間の余裕や自分なりのペースで勉強ができる川越高校定時制に進学しようと決心しました。川越高校定時制に入学した当初は、またいいじめられるのではないか、友達はできるのか。毎日が緊張の連続でした。そこで私は、もう誤解され続けるのは嫌だと思い、勇気を出して自分の病気の事を自分から話すことにしました。クラスメイトの人たちも始めは戸惑いもあったと思いますが、私のことを優しく受け入れてくれました。特に嬉しかった事は、私が難聴であることを知らない人と話していたとき、聞こえない私との間に友人が立ち、説明してくれたことです。

授業でも先生の話がよく聞き取れなかったときは友人がノートをを見せてくれ、大きな口をあけて教えてくれました。また先生方も大切なことは黒板に書き、大きな声で読み上げてくれ、プリントを配るなどして分かり易く授業を進めてくれました。私は、そのよくな周りの配慮に、大変助けられました。しかし

依然として聴力はよくなり、今年四月に担当の医師から「残念だけど、そろそろ覚悟をしたほうがいいですね。」と告げられ、自然と涙が出て、頭の中が真っ白になりました。そしてその時、私にはある決意をしました。このままではいけない。先生や友人にいつも助けられてばかりいる自分ではいけない。自分でもできる事が何かあるはずだと思いましたが。そこで私は、「手話」と「口話法」を覚えることにしました。特に口話法は担当の医師の勧めもあり、積極的に指導を受けることにしました。「口話法」とは唇の動きを読み、言葉を理解すること、習得するには大変時間がかかるものですが、そこで私は言語療法士の先生の指導を半年間受け、今も続けています。最初は全く読み取る事ができなくて大変苦労しましたが、熱心に指導して下さいました先生のおかげで少しずつ唇の動きを読めるようになりました。以前は友達の声は聞こえなくて返事ができなかったこともありましたが、口話法を覚えてからは嫌な思いをすることはほとんどなくなりました。

現在、私は生徒会の役員をしています。生徒会に参加した理由は色々な行事に積極的に参加したいと思ったからです。最初の仕事は予餞会でした。

生徒会役員のみんなでダンスを披露しました。準備の段階や練習の時には言い争いをして、もめてしまったこともありましたが、最後には、みんな協力して楽しく踊ることができ、よい思い出になっています。そして一番力を入れた行事が文化祭です。二ヶ月も前から準備に取りかかり、当日まで作品の仕上げや装飾の作業をしました。自分たちで考案し、生徒全員が参加する文化祭にすることができ、とてもよかったです。

私は今、多くの人々に支えられていることを実感しています。そして言葉では言い尽くせないほどの感謝をしています。今も聴力は回復していませんが、日常生活や学校生活にほとんど支障なくすごすことができるようになりました。今度は自分が誰かの支えになり、人を励ます事のできる人間になりたいと思っています。

## 島村 和夫 教育長 表敬訪問



文部科学大臣賞を受賞した鈴木麻衣さんが、昨年12月28日埼玉県庁で教育長表敬訪問をしました。この日は鈴木さんのほか卓球と陸上の全国大会で、それぞれ好成績を残した他校2名の生徒と一緒に訪問しました。

鈴木さんは緊張しながらも自己紹介をはじめ、大会当日の様子や普段の学校生活のことなどを話しました。

島村教育長からは「困難を克服することは並大抵のことではない、自分に自信をもってこれからも頑張ってください。」と励ましの言葉をいただきました。鈴木さんはこの経験を生かし、次の新しいステップに向けこれからも努力を続けていきたいと言っています。



平成二十一年度 第五十七回  
全国高等学校定時制通信制  
生徒生活体験発表大会



本校定時制課程3年鈴木麻衣さんが

文部科学大臣賞を受賞しました！



鈴木麻衣さんは、全国大会に先立ち、平成21年10月18(日)埼玉県大会(桶川市 さいたま文学館)で最優秀賞に選出され、県代表になりました。そして11月22日(日)国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて第57回全国高等学校定時制通信制生徒「生活体験発表会」が開催され、全国から定時制・通信制の代表者56名の参加がありました。その中で埼玉県代表の鈴木さんはみごと最も優秀とされる文部科学大臣賞を受賞しました。

鈴木さんは、難聴であることを自ら語り、それをどのように克服したのかを発表しました。鈴木さんはこの発表を通して、「障害は一種の壁と同じようなもの。前に進めないこともある。でも、私のように周りの人々に支えられて前向きに頑張っていける人もいます。」ということ伝えたいと語っています。